地域ケア推進会議の振り返り

資料3

地域ケア推進会議　平成30年2月27日のまとめ

平成29年度地域ケア個別会議から4町共通で見えてきたこと

高齢者を支える人が身近にいなくて困っている

（困っている具体的な状況）
- 子供達が遠方に住んでおり、めったに帰ってこない。
  （子供はまだ生活できると思って支援してくれない。問題意識が無い。家族関係。）
- 周囲に家が無い。（声かけ・見守りをする人がいない）
- 集落みんなが高齢者である。
- 本人に認知症があり、関わった人が悪者（被害妄想）になるので手出しできない。
- 転入者で近所に親戚がいない。近隣との関係が無い。
- 元気な頃から近隣との交流がない。
- 認知症があり、近隣者への被害妄想がある。
- 子供・身寄りが誰もいない。
- 子供に障害があり、支援が望めない。介護が十分おこないにくい。
- 支援をしていた人が、支援の必要な状態になった。

普段からの近所付き合い・手助けする関係

それによって引き起こされる生活の困難

ちょっとした支援
- 安否確認
- ゴミ出しなどの簡単な日常生活支援

（困っている具体的な状況まとめ）

〇子供が遠方・単身で手助けを望めない
〇助け合う者同士が高齢化し助け合うことが難しい

〇本人は「今住んでいるところにいたい」
子供は「自分のそばに引き取りたい」と
お互いの思いが異なりぶつかってしまう

〇周囲の認知症への理解が低い

〇在宅の支えの要となるヘルパーの
人材不足（人材確保が困難）

元気なシルバーが手助け

これらの困り事を3つの視点で振り分ける

①日頃の支援をしてくれる人がいない
②自分の身の振り方を一緒に考えてくれる人がほしい
③認知症になっても住み慣れた家で暮らしたい

平成30年度　第2回地域ケア推進会議　流れ

1. 前回までの振り返り

平成29年度の地域ケア個別会議の中から、4町に共通する地域の問題を
集約すると

高齢者を支える人が身近にいなくて困っている
だった。

それらの内容を3つの視点に分け、

①日頃の支援をしてくれる人がいない

の内容で、委員さんに取組等を出していただいた。

取組や心がけは、他の視点

②自分の身の振り方を一緒に考えてくれる人がほしい
③認知症になっても住み慣れた家で暮らしたい
にも繋がっている様に思われる。

そこで

地域のことを自分達のこととして考える場が必要！

「現在ある集まりの場」で話し合う
小地域福祉活動
福祉連絡会
見守り会議等

2. 活動事例紹介

①千種から　　船曳副会長

②山崎・一宮・波賀から　　生活支援コーディネーター森井さん

3. 意見交換

「福祉を考える集いの場」について、意見を求める。
・それぞれの立場でできることを考える。
・行政は、集いの場支援をおこなっている。
・今ある地域の活動を活発にしていきたい。
そのための協力をしていただきたい。

まとめ（この話題について、包括から3回分のまとめをおこなう）
3回の協議をおこなっていく中で、個別の問題から地域の問題として
皆で話し合っていただき、心がけや取組方法など、一つの区切りが出来ました。

まだまだ、具体的な解決方法までは至っていませんが、高齢者が住みやすい、
高齢者が住みやすい宍粟市にするために、今ある組織でできることを
おこないつつ、縦横の連携をおこなっていきたいと思っています。

「日頃の支援をしてくれる人がいない」についての検討結果

対象者に勧めたいこと

自分の身の振り方を考える
近隣の人と顔なじみになる

薄
親密度
濃

・近所の人とのあいさつ

・おすそ分け・譲り合い

・地域行事への参加を心がける

・近所の人にキーパーソンになる家族の近況・連絡方法・かかりつけ医などを知っておいてもらう

・地域で自分ができることをする

家族に伝えたいこと

対象者
- に、もっと関心をもつ
- の変化を細かく観察
- の日中活動を知る
- の受診の付き添いはする
- は誰と仲が良いのか知っておく
- （できれば連絡先もやりとりしておく）

色々な人にお世話になっているという意識をもつ
家族から近所の人への声かけ
家族から自治会の人への声かけ

・何かあった時のためのカードを作っておく
・対象者が地域の行事に出られるように周囲の人たちに支援をお願いする

情報のやりとり
・家族の連絡先を伝える
・帰省の予定を知らせる
・気が付いた事があれば連絡してもらう

市や福祉機関ができること

・地域の困り事の発掘と住民支援
・地域の集まりの場（ふれあい喫茶等）へ参加し
　困り事相談（地域の問題を一緒に考える）
　ネットワークづくり
・同居でない家族と地域住民との関係作りの調整役
・認知症の個別対応、地域住民への普及・啓発
・**元気なシルバーの手助け**

地域ができること

地域の声かけ
見守り

・通いの場・集いの場をつくる

毎日
単発

現在ある集まりの場
- 親しい人が毎日集まる場
- いきいき百歳体操
- ふれあい喫茶
- 老人会
- とんど・クリーン作戦

今後必要な集まりの場
- 気軽に参加しやすい行事を考える（継続性のあるもの）

行かない人は行かない。
個の対応でしか難しいかも。。。

・気にし合える関係（交流の場への参加の声かけ、送迎の援助、買物への誘い
　困っていることはないか（ゴミ出し等））

・自治会での見守り活動（ままシート）や情報共有（世帯状況等）
　福祉委員の活動強化、

地域のことを自分達のこととして考える場が必要！

小地域福祉活動・福祉連絡会・見守り会議等